

わ げん あい ご 和 顔 愛 語

西法寺だより No.7 令和4年4月発行

ごあいさつ

桜の季節はあっという間で、やわらかな春風を頬に感じ、心華やぐ頃になりました。

ご本山ではこの4月に阿弥陀堂の内陣の修復工事が完了されました。

それに伴い、平成30年12月より阿弥陀堂から御影堂の正面にご移動いただいていたご本尊の阿弥陀さまを、再び阿弥陀堂へお戻しする「御遷仏」が行われ、御遷仏法要・阿弥陀堂内陣修復完成慶讃法要が勤まりました。

コロナ禍が続く中でも大勢のお参りがあり、全国のご門徒さまの様々な想いが感じられました。

仏教の
ことば

ご せん ぶつ ご どう ざ 御 遷 仏 ・ 御 動 座

『御遷仏』とは、仏さまを動かすという意味で、本堂の阿弥陀さまや仏壇の仏さまをご移動いただく時に用います。（浄土真宗では「お性根抜き」「魂抜き」「閉眼供養」などは用いません。）

『御動座』とは親鸞聖人のお木造をご移動いただく時に用います。

本山の御影堂（親鸞聖人のお堂）の修復工事をされた時は、『御動座法要』が中心に行われました。この4月に完了した修復工事は阿弥陀堂でしたので『御遷仏法要』が中心でした。

皆さまの仏壇の阿弥陀さまをご移動いただく場合にも、『御遷仏法要』のお勤めをいたします。

浄土真宗のおはなし

こう 香

インドでは、香は古くから天上界を供養するものと考えられ、粉末を塗って身を清めたり、屋内に薫じて賓客をもてなすために用いられました。

お釈迦さまを迎えるに当って、地に敷きつめたとも伝えられています。佛前に香を薫じるのは、このような故実に由来します。

浄土真宗における香の使い方

1. 塗 香

導師が礼盤(高座)の上で、香の粉末を身体(法衣)に塗って、身を清めます。



2. 燃 香

香炉に抹香を埋めて火をつけ、長時間薫じ、その匂いで佛前を荘厳(おかざり)します。線香が我が国で用いられるのは江戸時代からで、抹香に準じて灰の上に寝かせて供えます。



3. 焼 香

法要・儀式に当り、参列者が佛前に進み出て香を薫じる。香炉には予じめ火種を入れておきます。香は頂かずに一回だけ香炉に薫じ、合掌・礼拝します。



地上から虚空に至るまで、佛の国のすべての物は無数の宝物や様々な種類の香によって作られ、その荘厳さは限り無く、香は普く十方世界に薫る。その香を聞くものは皆な佛道を修行するであろう

行事報告

報恩講法要

11月12日(金)夜座、13日(土)昼座をお勤めし、夜座では「もみじ」「ふるさと」「ハナミズキ」などの雅楽演奏会を行いました。

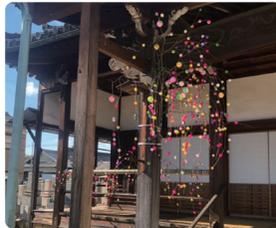
ご法話はたつの市浄蓮寺の竹内俊之師をお迎えし、親鸞聖人のみ教えを聞かせていただきました。



西法寺もちつき

この度ももちつきは中止いたしました。前回に続き、仏教壮年会の皆様にも『もち花』を山門、向拝、鐘楼そして堂縁にも飾っていただきました。

心が沈みがちな日々の中でとても癒やされ、ご門徒の皆さまも喜んでくださいました。



除夜の鐘

除夜の鐘は家族連れなどで賑わい、昨年より多くの皆さまがお越しくださいました。



ご多用の中、またコロナ禍にもかかわらず各法要・行事にご協力いただき誠にありがとうございました。

令和4年度 行事予定

- | | | | | | |
|--------|----------|--------|---------|-----------|--------|
| ◆常例法座 | 4月13日(水) | 19時30分 | ◆報恩講法要 | 11月12日(土) | 19時 |
| ◆永代経法要 | 5月12日(木) | 19時00分 | | 11月13日(日) | 10時30分 |
| | 5月13日(金) | 10時30分 | | | 13時30分 |
| | | 14時00分 | | | 15時 |
| ◆常例法座 | 6月13日(月) | 19時30分 | ◆常例法座 | 12月13日(月) | 19時30分 |
| ◆常例法座 | 7月13日(水) | 19時30分 | ◆除夜会 | 12月31日(土) | 23時45分 |
| ◆盆会 | 8月18日(木) | 19時30分 | ◆門信徒新年会 | 1月13日(金) | 11時30分 |
| ◆秋季彼岸会 | 9月22日(木) | 19時30分 | ◆春季彼岸会 | 3月22日(土) | 19時30分 |

※新型コロナウイルスの動向で予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

本堂修復について

西法寺の歴史を振り返ってみますと、500年ほど前に初代釋祐證が臥龍山西法寺を開かれました。

現在の本堂は、1741年に第7世智鳳が北脇城跡地に建立、100年前の1922年に第13世俊静が修復し、現在に至っております。

修復時には建立当初の材木や瓦を再利用しており、現在では瓦が割れ、材木が腐り、雨漏りしている状態です。

よって、代々にわたり守られてきた御本尊阿弥陀さま、ご先祖さまが親鸞聖人のみ教えを伝えるために建立されたお念仏の道場を、私たちが次の世代へ繋ぐべく、修復工事の必要性を感じております。

皆さま方のご理解とお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

臥龍山 西法寺

〒671-0122 兵庫県高砂市北浜町北脇110
TEL 079-254-3777 FAX 079-254-4588
<https://saihouji.lsv.jp/>

